

2016 年 11 月 2 日

初年次 GPA と通算 GPA に関する相関について（概要）

大阪経済法科大学
大学教育開発支援センター

（結果概要）

- ・ 初年次 GPA と通算 GPA の間には強い相関関係（初年次教育の重要性）
 - 初年次の成績と卒業時の成績に大きな相関がある。
- ・ 各年次・各セメスターGPA と通算 GPA についても強い相関関係
 - 初年次から卒業時まで GPA にほぼ変化がない。

近年、IR (Institutional Research)によるデータエビデンスに基づく教学マネジメントの必要性が言われている。大阪経済法科大学（以下、本学）においても、種々の IR 活動を行っている。本報告にある通り、GPA に関連した学生の学修プロセスに関する分析もその一つである。

GPA 分析に関連し、幾つかの大学から初年次 GPA と通算 GPA の強い相関関係が報告されている。本学においても同様の傾向が見られるかについて調査を行った。

表 1 及び表 2 に、本学 2013 年度入学生 (n=605) の、2016 年度春学期までの通算 GPA と各年次と各セメスター間の相関係数を示す。ここで、相関係数 r は $|r| \leq 1$ の値をとり、1 に近いほど相関が強く、0 に近いほど相関が無い。p は相関係数の有意性を表すもので小さいほどよく、一般的な目安として 0.05 未満であれば問題ない。

表 1. 通算 GPA と各年次の相関係数 r (すべて $p < 0.001$)

	1 年次	2 年次	3 年次
通算 GPA	0.872	0.916	0.890

表 2. 通算 GPA と各セメスター間の相関係数 r (すべて $p < 0.001$)

	1 年春	1 年秋	2 年春	2 年秋	3 年春	3 年秋
通算 GPA	0.797	0.847	0.873	0.743	0.866	0.773

表 1、表 2 を見ると、各年度・各セメスターの GPA がそれぞれ、通算 GPA と強い相関関係を持っていることが分かる。すなわち初年次から成績状況 (GPA) は大きく変化しないことを示している。以上から、本学においても他大学と同様に初年次 GPA と通算 GPA に強い相関があることが分かり、初年次教育の重要性が確認された。